

たすき 礪 つないだ ランナー

- 1区 [女子 4.0km] 伊藤 妃杏 (西会津中2年)
- 2区 [男子 8.2km] 伊藤 亜久里 (東亜テクニカル(株)会津若松営業所)
- 3区 [男子 5.8km] 清野 樹 (西会津中3年)
- 4区 [男子 7.3km] 高野 駿 (喜多方高1年)
- 5区 [男子 6.4km] 岩原 遥音 (喜多方桐桜高1年)
- 6区 [男子 8.3km] 鈴木 俊哲 (会津学鳳高2年)
- 7区 [男子中学生 5.4km] 鈴木 正人 (西会津中3年)
- 8区 [男子中学生 4.1km] 清野 桜大 (西会津中1年)
- 9区 [女子中学生 3.0km] 築田 まりな (西会津中1年)
- 10区 [男子 9.3km] 伊藤 大河 (会津高3年)
- 11区 [女子 3.9km] 築田 ゆりな (西会津中2年)
- 12区 [男子 7.0km] 高津 雄大 (田代電機製作所西会津工場)
- 13区 [男子 4.8km] 齋藤 溪 (東北学院大3年)
- 14区 [男子 5.7km] 雅楽川 隼人 (西会津町振興公社)
- 15区 [女子 3.4km] 江川 愛彩美 (喜多方桐桜高1年)
- 16区 [男子 8.4km] 大場 悠 (西会津町役場)



▶ 岩原遥音選手(5区)

社会人や高校生など強豪ぞろいの1区女子区間に抜擢された中学2年生の伊藤妃杏選手が初出場ながらペースを着実に刻み、第一中継所に入ると、チーム主将で兄の伊藤亜久里選手が襷を受け、一般選手区間の3区を走る中学3年

思いを1つに

生の清野樹選手に襷をつなぎ、2区、3区を堅実に走り抜けました。

その後、4区の高野駿選手、5区の岩原遥音選手が危なげない走りを見せ、レース前半で一斉スタートとなった6区の鈴木俊哲選手が、区間29位で総合順位を2つ上げ33位の位置につきました。

中盤は、初出場の7区の鈴木正人選手、8区の清野桜大選手、9区の築田まりな選手の走りで総合順位を3つ上げ、エース区間の10区では伊藤大河選手が区間18位の快走を見せ、総合順位を29位としました。その後は、11区を中



▲ 清野桜大選手(8区)に声を掛ける 佐藤悦美監督



▶ 鈴木正人選手(7区)



▶ 築田ゆりな選手(11区)

学2年生で初出場の築田ゆりな選手が区間28位で走り抜け、数日前に区間変更となった12区の高津雄大選手と14区の雅楽川隼人選手、今大会唯一のふるさと選手となった13区の齋藤溪選手、15区の江川愛彩美選手が懸命に襷をつなぎ、西会津町チームで3年連

逆境にも負けず

今年の西会津町チームは、登録選手が少なく、大会直前まで選手のけがなどに悩まされ、2次エントリーを一部変更せざるを得なくなるなど苦しいチーム事情がありました。このようなチーム事情の中でも、応援していただく町民の皆さんの思いを胸に、選手一人一人が精一杯走り抜けた大会となりました。



西会津町チーム総合32位

町の部14位でゴール

2年ぶりに福島県縦断

第33回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会「ふくしま駅伝」が11月21日、しらかわカントリースポーツパーク(白河市総合運動公園)をスタートし、福島県庁前まで全16区間95・0キロで開催されました。昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響でコースが短縮されましたが、今年は体調管理チェックシートの提出や、中継所における人員を制限するなどの感染症予防対策を行い、2年ぶりの「福島県縦断」の大会となりました。

県内59市町村から50チームが出場した今大会は、天候にも恵まれ、終始穏やかな陽気のもと、全チームが16区間を走り抜けました。

さゆり公園での夜間練習を重ねてきました



西会津町チームは、昨年に引き続き佐藤悦美監督を中心として、『込める!みんなの思いを1本のタスキに!』をスローガンに、7月から週3回、さゆり公園で練習を重ねてきました。昨年の総合29位よりさらに上位を目指し、チーム一丸となって本番まで取り組んできました。

西中図書館 新刊オススメ本



『2030 未来への分岐点』
[NHK スペシャル取材班 著]
NHK 出版

現在、私たちが直面している世界規模の諸問題（資源の大量消費、加速する温暖化など）において、重大な分岐点になるのが「2030年」だと言われています。危機を回避するためには、この10年における私たちの行動と選択が、人類の未来にとって決定的に重要になってきます。

本書では、それらの問題に対し、6人の「世界の賢者」にインタビューし「未来への展望」を描いています。

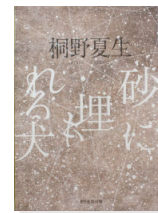


『10秒で疲れがとれる
奇跡の目元ほぐし』

[村木 宏衣 著]
主婦の友社



『舞風のごとく』
[あさの あつこ 著]
文藝春秋



『砂に埋もれる犬』

[桐野 夏生 著]
朝日新聞出版



『ミカエルの鼓動』

[柚月 裕子 著]
文藝春秋

町民ギャラリー 出ヶ原和紙作り講座

町公民館では、地域文化を再生し、和紙の新たな可能性の発見を目的とした「出ヶ原和紙作り講座」を昨年度から開催しています。前月号に続き、本講座に参加した皆さんが自分で漉いた出ヶ原和紙を使って作成した作品を紹介します。

今日は、田崎真子さん（出ヶ原）の作品です。

作品によせて…

- ① ランプシェードは、二本松市和紙伝承館を視察した際に見たものを参考にし、近所で拾ったモミジなどを使って作りました。
- ② 遠方の町出身の皆さんに送ろうと思い、年賀状サイズに加工しました。今の出ヶ原和紙の取り組みを伝え、赤べこなどのイラストを通して会津に思いを馳せてもらいたいです。
- ③ 取り除いたちりなどをあえて散らして一味違った和紙を漉きました。自分の名前にある「真」の字を書き、中央にあしらってみました。

①



②



③

